



「ぬくもりのある  
手仕事の魅力に触れたくて」

# 中山美穂

さん

## ニッポンの 刺繍に出会う

服や着物の帯に刺繍があれば、じっくり眺め、写真に収め、自身の作品のデザインに取り入れ……と、刺繍が生活の一部にある美穂さん。パリから一時帰国中、日本の刺繍に触れたくて、江戸刺繍の職人さんを訪ねました。

結婚を機にパリに移り住んだ美穂さん。念願かなって通い始めたのが、フランス刺繍の教室でした。

「どうして刺繍だったんでしょうね。」

それまでも、コッコッ何かを作ることには好きで、撮影の合間などに編み物はよくしていました。ある時、フランスのオートクチュールのドレスの刺繍を見て、そのひと針ひと針の時間のかけ方と美しさに感動して……「いつか自分も刺してみたいと思っていました」

何か好きなものがあると、どうして好きなんだろう、と過去の記憶をたどっていくタイプとか。

「小さい時、母がカイコを飼ってくれ



「糸の撚りかけ方で  
仕上がりの光沢が  
変わるんですね」



シンプルな刺繍やおし  
ゃれにアレンジした装  
飾を並べた作品。刺繍  
で表情をつけるのも素敵  
でしょうね。一つ一つ  
の造形の美しさに目を  
奪われる美穂さん

〔上〕手のひらを使って  
糸を撚り合わせる。撚  
りかけ方で刺繍の色合  
いが変わる  
〔右〕「いろは」をモチ  
ーフにした現代的なオリ  
ジナル作品も。「私もこ  
ういう作品をいつか手  
がけてみたいな」  
〔下〕美穂さんが丁寧に  
ひと針ずつ刺していき、  
糸を巻く時はいかにも  
日本らしい道具



帯や襦袢に施した刺繍や装飾した  
絹上さんの作品を前に「すごい、  
すごい、すごい」と感嘆する  
美穂さん。美上さんは江戸刺繍の  
世界で若手の注目株。展覧会など  
にも出品している

ブラウス ¥181650 / アエッフェ・  
ジャパン(アルベルタ フェレッチ  
ィ) ピアス ¥199500 / ネックレス  
とブレス(セット価格) ¥168000 /  
TASAKI / パンツ / 私服

Miho Nakayama  
meets Japanese embroidery



「これが絹糸になるのよ。って、カイ  
コが糸を吐いているのを飽きずに眺め  
ていたことを覚えてます。すごいな  
あ、って、私、糸そのものが好きな  
だと思っただけです」

日本古来の粋を絹糸で  
表現している江戸刺繍

久しぶりに日本に戻ってきて、同じ  
刺繍でも日本古来の江戸刺繍に慣れて  
みたいと思ひ、職人の猪上雅也さんの  
技を拝見することになりました。  
「着物の帯など、刺繍があるとじっく  
り見てもいいです。一部を写真に撮っ  
て自分なりにアレンジして作品に生か  
したり……。和の刺繍のモチーフにも  
とても興味があります」

この日、美穂さんの師匠となった猪  
上さんは、染物屋の生まれ。着物や和  
傘など、日本ならではの手仕事に囲ま  
れて育ち、小さいころから何かを作る  
ことが大好きだったという根っからの  
手仕事師。江戸刺繍門下に弟子入り後、  
独立して10年余り、代々受け継がれて  
きた江戸刺繍の技を守りつつ、精力的  
に独自のオリジナル作品を発表してい  
る若手のホープです。

「江戸刺繍の特徴は、刺し過ぎず、空  
間を生かして、江戸らしい粋を感じさ  
せるところでしょうか」と言う猪上さ  
んは、ヤマモモやアカネ、ムラサキ草  
などで自ら染めた草木染めの絹糸を使  
っています。

糸の束を手を取った美穂さん。  
「柔らかくて気持ちいい！ ものすご  
く細くて、フランス刺繍にはない繊細  
さ。とってもきれいな糸ですね」

そんな細い糸で気の遠くなるような  
手数をかけて刺された羽のモチーフの  
作品や古来の家紋の刺繍にすっかり心  
奪われた様子。

「昔は自然で一番輝くものが絹糸だ

「細かい糸と細い針で刺す江戸刺繍。繊細で美しく、そしてぬくもりがありますね」



「わぁ、かわいい！」と小極精に感動。「平織の」という技法で図案を刺し、細かい糸で上から押さえる「切り押さえ」。糸糸を引っ張り、細かい糸でとめていく「引っ結び」という技法でとめる。自然と木目が出てきて、豪華な雰囲気だ。

「たんずねさん、ロウソクの火の明かりで刺繍が着ていた着物の刺繍が、髪に  
 応じてさらさら輝いて美しかった。だ  
 から布に模様をつける手段として、刺  
 繍は最高のものだったんです。これら  
 の糸は手で染めていますから微妙な染  
 めムラが出ていますが、このムラが刺  
 した時の奥行きになるんです」  
 と緒上さん。  
 「確かにそうですね。以前、髪染  
 の工程を見せていただいたことがあり  
 ます。髪染に入ってから、絞って……と何  
 回もその工程を繰り返して、最初はエメ  
 ラルドグリーンから始まって、回を追  
 うごとに、深みのある藍色に変わって  
 いく。その様子がとてもきれいで、感  
 動的でした」

**針と糸のシンプルな作業を  
 支える精緻な道具たち**

「ちよつとやってみますか？」

「いいんですか？」

糸を縫り合わせたら、早速伝統柄の  
 「雪輪」に挑戦。

「針も細い！」と驚く美穂さん。

「手作りで、糸口を薄くして穴をあけ  
 ているんです(緒上)」

「あ、だからすーっと糸が入っていき  
 ますね(美穂)」

「この針を打つ職人さんも成っている  
 んです。この針がなければ、繊細な刺繍  
 ができなくなってしまう(緒上)」

「針と糸の、シンプルな作業だからこ  
 そ、道具のちよつとしたことが影響す  
 る……すごい世界ですね(美穂)」

まずは緒上さんが、「こま縫い」の見  
 本を披露。中指と親指で上から刺して、

下から抜く時は人さし指と親指で、こ

れを巧みに繰り返して、細い針が布を  
 行ったり来たりするうちに、みるみる

「雪輪」のラインが完成していきます。

途中まで刺された刺繍柄の裏を覗いて、



「子供のころ、カイクが糸を吐くのを飽きずに眺めていました。私、糸そのものが好きなんだと思うんです」



貴重な江戸期の時代衣装を拝見

貴重な時代衣装を献上さんの両親から借りて見せてくれた。  
 (左)江戸後期の遺物に施された鱈の刺繍。生糸の色は年月を経て暗くなっているが、それが本物ならではの味わんだらもう  
 (右)江戸中期の襦袢刺繍。原木染めの美しさが残っている。資料提供：鶴込 工務 布礼堂

Miho Nakayama

なかやま・みほ 70年3月1日生まれ。  
 幼年にシゴトデビュー以降、  
 歌手として女優として活躍。  
 現在はパリ在住。幼年に江戸刺繍に初体験、  
 パリでの生活を綴ったフォトエッセイ  
 『なぜならやさしいまちがあったから』  
 (集英社)を上梓。昨年は映画  
 『サヨナライツカ』に主演し話題に

Miho Nakayama  
 meets Japanese embroidery

「表側もきれいな」と、感心する美穂さん。  
 「刺繍をたしなんでいる方は、やはりまず裏を見ますね。修業当初はよく裏方に裏を覗かれて、そんな手じゃダメだぞって言われたものです」  
 とにっこりする緒上さん。  
 「こま縫いと同じ手法はフランス刺繍にもありますが、これほど細かくはないです。それでも私の場合、うっかりすると、ひっくり返した時に、わっ、びっくり！、なんてことになっていたりするので(笑)」  
 美穂さんの細い指も、手慣れた人の動きでみるみる金色のラインを生み出していききました。  
 「写輪は角のエッジをきちんとつけるのがコツですね(美穂)」  
 次は糸に縫いをかけて小柄の柄を刺す練習。

「糸を縫らないと刺の優しい光り方に縫りをかけることでマットな光り方になります。刺す幅や糸の太きも柄に合わせて決めていきます」と緒上さん。  
 「糸の縫り方ひとつで表情がとて変わりますね。フランス刺繍もそうですが、同じ柄でも刺す人の個性が出るのが刺繍のおもしろいところですね」  
**こつこつ手作りした  
 ものにはぬくもりがある**

息子さんが幼稚園に入った時、美穂さんは刺繍に母の思いを託しました。  
 「お昼寝の時にうまく眠れないといけないと思って、枕カバーに彼の好きなぬいぐるみと、日本にいる大好きなお友だちの顔を刺繍しました。これは、〇ちゃん。だよって」  
 刺繍教室を終了した今も、息子さんを学校に送り出したひとりの時間に刺繍を染しんでいる美穂さん。  
 「なにもかも忘れて没頭する時間っていいですね。実はサロン(フランスのリビングルーム)の隣に自分のクリエイティブ・スペースなるものを作っちゃいました。刺繍をしたり、ミサンガを編んだり、LEDのエッセイ原稿もそこで書いています」

ミサンガは、東日本大震災のチャリティ募金のお手伝いで今も製作中。  
 「息子にも作り方を教えてと言われています。後も手仕事派なのかもしれない(笑)。刺繍も機械化されていることが多いけれど、震災後は特に手仕事の大切さを思うようになりました。経済効率には見合わないかもしれませんが、気持ちも含めてこつこつ作ることに大切さ、今日は江戸刺繍を見せていただきますが、その美しさはもろろんですが、なによりもぬくもりを感じさせてくれるところが魅力。いつかこつこつ時間をかけて習いたいんです」

新しい柄にも次々と挑戦する緒上さん

江戸期の刺繍は、古典柄「江戸刺繍」(左)と、オリジナルデザイン「くるくるだま」(右)。美穂のように染み出たれは美しい柄たち。も後の息子に「教えてよ」と言われるから、次世代も受け継がれるよう、もっともっとと挑戦したい」と緒上さん。作品/刺繍：小早 京中



美穂さんが道中まで刺繍をし、緒上さんが仕上げた作品が完成！右が「めだかそく」、左が「こづち」のプローチ

